

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	田中 清裕	生徒指導主事氏名	三村 勝彦
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『黒高レンジャー』

取組のねらい『キーワード 主体性の育成』

黒瀬高等学校が、どうすれば明るく、雰囲気の良い学校になるのか。地域の方々の信頼を獲得するためには何が必要なのか。これらのことを生徒が主体となって考える機会を作り動機づけを行った。

取組の具体的内容『キーワード 明るい学校づくり』

取り組み内容を挨拶・美化・掲示・地域・花・旗掲揚などで区分化し、参加者を募りグループを結成した。参加者は全校生徒の 3 割にあたる述べ 100 名の生徒が手を挙げてくれた。

そして結成されたグループ別に行動アイデアを練り、準備、実践、振り返りの PDCA サイクルを回しながら、学校や地域の活性化に貢献した。



☆話し合いや準備の光景

取組の課題・創意工夫『キーワード 継続』

どのような取り組みにしても言えることだが、主体的な取り組みを、継続させることが非常に難しい。そのような状況において、ボランティアを通じて知り合った地域の方々や PTA 活動などで交流を持った保護者の方の掛け声は生徒の継続の原動力となった。

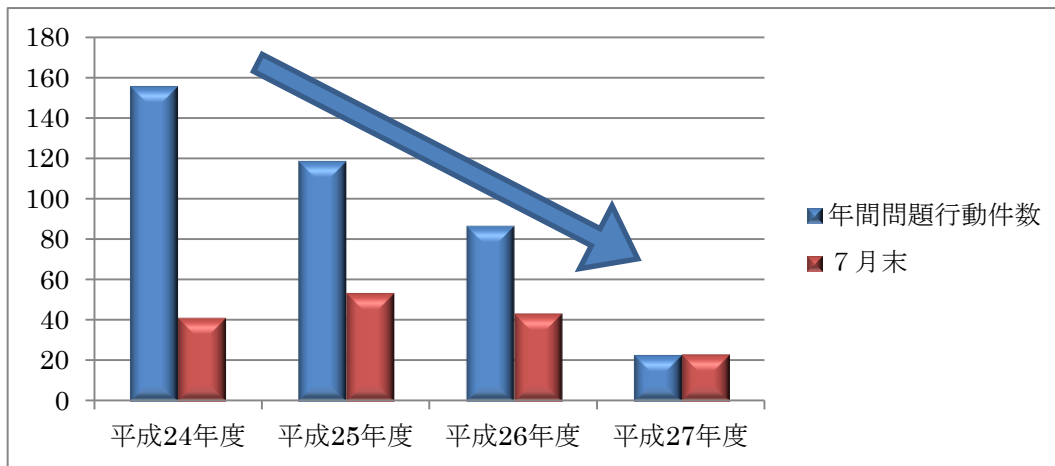


☆地域の方々とボランティアを通じて触れ合う。

取組の成果（効果）『キーワード 自己存在感の獲得』

生徒の表情が明るくなった。「褒められる」「必要とされる」といった肯定的な体験を通じて、自己存在感が芽生え、社会の中での自身の必要性を生徒なりに感じ取れた結果であろう。

また、生徒の会話にも変化が現れ、学校生活を律し、明るく信頼される学校になりたい。といった趣旨の会話が聞こえてくるようになった。更に成果は数字にもハッキリと表れ、問題行動数が激減した。



今後の展開『キーワード 拡大』

黒高レンジャーという取り組みを通じて、生徒の自己存在感や肯定感が向上した。今後はレンジャーのみならず、部活動や勉強といった分野で、主体的に目標を設定し準備、実行する生徒を育成することが重要である。そうすることで、様々な場面で自己存在感や肯定感を得られる生徒が増えると考えている。



☆活動風景 挨拶レンジャー



☆活動風景 花レンジャー

他校へのアドバイス『キーワード 信じてやらせる』

実際は生徒が動かない場面も多々あるが、「失敗しても良い」くらいの余裕をもって待つことも必要である。褒めることも重要であるが、すぐに褒めるのではなく、努力してチャレンジした姿勢が見られた時に褒めることが大切です。